発表：山崎源治「ＤＰと待ち行列について」

（要旨）最近待ち行列理論に動的計画法の応用がよく見られるようになったので，その現状をまとめた．特に診断の時期や回数を適当に決定する問題には興味があった．すなわち診断の時期が発病の直前であったり，病気中であれば，回復が遅れたり，手遅れということになる．反対にあまり早かったり，回数が多いと病気の発見が不可能であったり費用がかかることになる．

ＤＰ研究グループシンポジウム報告

日時：60年12月９日(月)，10日(火)

場所：八王子セミナーハウス，**出席者**：６名

発表：1. 山崎源治(工学院大)：ＤＰと待ち行列について

2. 小田中敏男(都工大)：Optimal Inventory Processes

3. 中井暉久(阪大)，文献紹介

4. 安田正実(千葉大)：Impulse Control of Brawnian Motion

5. 蔵野正美(千葉大)：分散最小基準のマルコフ決定過程

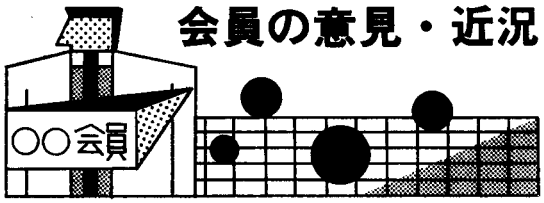
6. 坂口　実(阪大)，A Discrete-time Disorder Problem with Uncertain Probability of Disruption

7. 小田中敏男(都工大)：第１回 Bellman Continuum について

●日本的システム科学●

第９回

- **日時**：12月７日(土)　14:00～17:00
- **場所**：八丁堀 東京都勤労福祉会館　**出席者**８名
- **テーマ**：「日本をシステム科学する時考慮すべき日本文化の独特さ」
- **発表者**：上田亀之助(上田イノベーション研究所)
- 自分の事というものは案外と本人にはわかっていないことが多い．そこで他人とか外国人の観察や忠言を参考としながら，さめた目で日本を見つめて，見なおす必要を痛感しながら日本をシステム分析した．



声

論文誌の拡充を望む

東京工業大学情報科学科　**岡田　章**

第11期モニター（昭和60年６月～11月）を務めた縁で「会員の声」への投稿を依頼されました．そこで，日頃，ＯＲ誌や論文誌について感じることを２，３述べてみたいと思います．私自身はどちらかと言うと，ＯＲ誌よりは論文誌により関心をもっています．

論文誌については資金面などをもっと援助し，さらに質の高い国際的にも知名度の大きなものにする必要があると思います．たとえば，現在オフセット印刷のため投稿者は最終的な清書版を自分でタイプ打ちするか，その費用を支払わなければならず，他の論文誌に比べて投稿者の負担が大きいように思われます．

ＯＲ誌については，モニターをする以前から感じていたことですが，学会員ばかりでなく学会以外の人々が読んでも非常に有益な特集が多く，もっとＯＲ誌を学会の外に向けてアピールすることも大切だと思います．たとえば，一般の人が書店で手軽にＯＲ誌を購入できるようにならないのでしょうか．最後に，モニターを務めて研究普及や編集委員の方々の仕事がいかに激務であるかを知りました．関係の方々のご労力に深く感謝いたします．

「ＯＲの将来像」について継続的な論議を

都立商科短期大学　**日下　泰夫**

Post industrial society や情報化時代と言われ，価値観の多様化，経済・社会のソフト化現象等種々の変化が急速なテンポで進行しつつある今日，変化の方向を予見しつつ，それらに適切に対応していくことが重要ではないかと感じております．

現在，私は技術進歩下における設備更新（いわゆる，設備の陳腐化）を中心に研究を行なっておりますが，技術革新のテンポの速さから生じる研究の陳腐化現象にも直面しております．この陳腐化の程度は研究対象によって異なりますが，オペレーションズ・リサーチが社会の諸側面に関連している以上，程度の差はあれ，社会の変化に応じてその内容も変化していくことが予想されます．それゆえ，個人はもとより学会としても，“ＯＲの将来像”について特集やシンポジウム等で継続的にとりあげていくことが必要ではないかと考えております．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

近　況

日本電装株式会社　第2研究開発部　**山本　雅基**

「鉄腕アトム」「宇宙家族ロビンソン」等を小学校のころ見ながら育ったためでしょうか，大人になったら人語を解するコンピュータが一家に1台いるものとばかり思っていました．しかし大人になった今，家の中を見回しても，TVとステレオがあるだけです．どこに行けば，あのアトムや，フライデーに会えるのだろうか．

そこで最近機会をとらえて，人工知能の勉強をはじめました．(特に最近読んだ「ゲーデル・エッシャー・バッハ」は五つ星です)人工知能研究は幅広く奥深く，「人工知能とはまだ為されていないところのものである」と言う人もいるほどです．僕には人工知能研究は人間であることの再認識作業であるようにも思えています．その意味では偉大な宗教者たちは皆人工知能研究者だったのかもしれません．現在の世の中は，物質主義と，受験戦争に見られる知識偏重主義に満ちています．願わくば，人工知能研究が多くの人々に人間性の再認識をさせて，この狂った世の中が少しでも良くなりますように．それが一番大切なことであり，アトムはそれからでも遅くないと思う．

会合記録

（　）内は出席者人数

OA委員会　12月3日(火)(3)
ソフトウエア賞小委員会　12月6日(金)(6)
普及小委員会　12月9日(月)(4)
モニター委員会　12月10日(火)(2)
編集委員会(OR誌)　12月11日(水)(10)
研究小委員会　12月12日(木)(5)
編集委員会(JORSJ)　12月17日(火)(4)
会長候補者選考委員会　12月18日(水)(7)
ニューズ・レター委員会　12月18日(水)(3)

入退会

(60.9.21～11.25)

●入会（正会員）

飯田　博　第一経済大学
内田　浩司　㈱東レシステムセンター
大塚　久哲　九州大学
笹島己喜朗　花王㈱
杉原　和夫　大和製罐㈱
根本　敏則　建設省
坂内　陽一　㈱栗山米菓
高橋　進　東海大学
Jatinder N. D. Gupta
BALL STATE UNIVERSITY

(学生会員)

高橋　正明　東海大学

●退会（正会員）

青木利晴，石川明彦，上野裕也，大野庸子，大橋正彦，北川弘志，北畠一，武部健一，辻村捷太郎，戸村芳，中野勝博，藤井虔一，三国文治郎，三井信一，山部正一，吉弘貴

(学生会員)

田中康裕

編集後記▶早いもので年が明けてもう1カ月が過ぎてしまいました．この冬も，暖冬の予想がみごとに外れ，厳しい寒さの日が続きそうです▶当然のことながら，本誌は「会員による」雑誌ですから，「事例研究」「研究レポート」等本文の原稿をはじめとして，•研究室だより•会員近況等会員の皆様のご協力により構成されております．常時これらに関するご投稿をお待ちしております．このたび特に，本誌に対する要望，感想等のご意見を渇望しております．といいますのも，会員の有志の方々にお願いし，永いあいだ続いていた，半年任期のモニター制度が，前年の11月で，一時中断することになったからです．いただいたご意見を今後の編集の参考にさせていただくとともに，「会員の声」欄に掲載させていただく予定です．どうぞ気軽にご投稿ください．お待ちしております．(I)

オペレーションズ・リサーチ

昭和61年2月号　第31巻（新シリーズ第11巻）2号　通巻302号
代表者　近藤次郎
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
(電話　03-815-3351～2)　〒113
編集人　柳井　浩
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ケ谷5—4—2　〒151
定価　850円（郵送料含）年間予約購読料　9600円（郵送料含）

•本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ
•本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．